

中国の人口問題

——人口ボーナスの喪失と経済への影響

40年間続いた一人っ子政策が2015年に緩和。現在は3人までの出産が認められているが、出生率は上向いていない。人口ボーナスの喪失による中国经济への影響とは。

(4月21日開催、日外協ウェビナーから抜粋)

東京財団政策研究所 主席研究員

柯 隆

人口を計画的にコントロール

人口政策の難しさは、人権問題が絡む点にある。性別や人種・世代などに差別があってはならない。それでも中国では、計画を立てて人口をコントロールする政策が長年行われてきた。

これまでの経緯を振り返ってみよう。

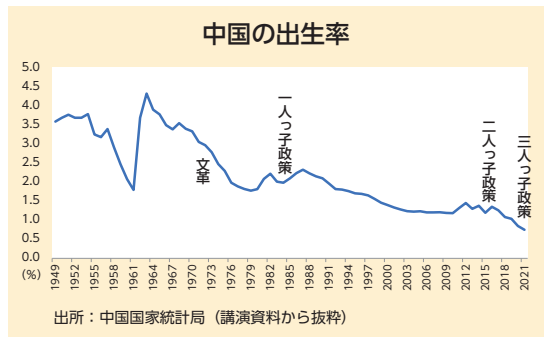
1953年の中国の総人口は6億人超。58年、毛沢東の下、米英を追い越せと「大躍進政策」が始まる。鉄鋼の大増産に突き進んだ結果、農業の担い手がいなくなり食料不足に。4000万人が餓死したと言われる。そこで、出産が奨励されるようになり、62年からはベビーブームが到来。64年の総人口は7億人を超えた。

66年から76年まで続いた文化大革命。まともな経済活動が行われない中、人口を抑制する必要が出てきたため、73年に「晩(晩婚)、稀(連続出産しない)、少(2人)」、「一人っ子政策」の原型が始まる。

79年、改革開放政策とほぼ同時に一人っ子政策がスタート。鄧小平が主導し、徹底して行われた。中国では現在40歳以下で兄弟がいる人はほとんどいない。

総人口は90年に11億人、2010年には13億人になるが、出生率は世界平均を下回っていく。そこで2015年、「二人っ子政策」に転換。だが、出生率は上がらない。2021年には「三人っ

子政策」へと制限をさらに緩和することになる。



一人っ子政策の思わぬ弊害

なぜ中国の出生率は上がらないのか。

理由として挙げられるのは、社会保障制度の未整備。都市部では公的な年金や健康保険が整備されているが、介護保険制度はない。夫婦にのしかかる負担は大きい。子どもの教育費や住宅ローンに加え、将来は両方の親の面倒を見なければならない。とても2人も3人も子どもを育てる余裕はない。

高齢化の問題も人々が将来への不安を抱く原因になっている。2020年現在の高齢化率(全人口に占める65歳以上の割合)は約13%。2030年には18%に達するとみられている。中国の1戸あたりの人数は3人をわずかに超える程度。独居老人の急増と孤独死が社会問題化しつつある。